

# Department of Pediatrics, Tsukiyama Hospital

## 月山病院小児科

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000  
 E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp  
 ホームページ http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/ (～はキ～ド～の@の上の^をshiftで変換)

### 今月の小児科診察予定

6月17日(火)、7月1日(火)は午後から大学診察のため時間外対応できません  
 6月18日(水)は時間外対応できません  
 金曜日午前中の診察は月山聖子が担当します、女性ならではの視点もあるかと思えます  
 育児相談等おきがるに御相談下さい



今月の顔

遥斗君はすっかりお兄ちゃん

連載：今月はこんな月

### 6月はこんな月

6月は感染症が多くなる時期です、水ぼうそうや溶連菌感染は年間でも最も多く発生する時期です、夏かぜとよばれるウイルス感染症(手足口病、ヘルパンギーナ、アデノウイルスなど)も発生数が多くなります、"水ぼうそう"や"おたふく"には予防接種という手段もあるので考慮してみてください、梅雨はダニやカビも多くなり喘息のかたも調子はよくない時期です、気温が高く皮膚の病気も多くなります、虫さされや"とびひ" "水イボ"などが増えてきます、スキンケアを心がけて下さい、小児科ではインフルエンザの時期について混みあう時期でもあり、御迷惑をおかけすることもありますが御理解のほどよろしく願います

境界領域(整形外科)  
 ○脚、X脚  
 子供の両膝の間隔が離れて踵(かかと)の間隔が離れないことを○脚、膝の間隔が離れず踵(かかと)の間隔が離れてしまうことをX脚と言います。(うちまた歩行、そとまた歩行もほぼ同じ意味)  
 2歳までは○脚で、それ以後はX脚になり、6-7歳で成人と同じようになります、すなわち○脚もX脚もほとんどは正常で治療の必要はなく時間とともに軽快します  
 どういう時が問題?  
 左のようなことがある場合は整形外科的な問題も含まれている可能性がありますので御相談下さい  
 過去に骨折したことがある場合  
 左右差がある場合  
 症状が進行性の場合  
 低身長がある場合など

### 解熱剤(熱さまし)は使っているの?

発熱時解熱剤は使っているのですか?というのをよく聞かれます、解熱剤の使用は医師によって説明がまちまちです、**最終的な判断は主治医と相談して決定していただき、ここでは教科書的なお話をさせていただきます**

**解熱剤で脳症を発生する?**  
 過去に使用していた解熱剤のなかには(商品名 ボルタレン、ポンタールなど)インフルエンザウイルスなどと相性が悪く、脳症を発生することがあると指摘されてきました、ほとんどの小児科医はこれらの解熱剤を十年程前から処方していませんが、現在全面的に小児の発熱には処方できなくなっています、現在小児で使用可能な解熱剤である**アセトアミノフェン(商品名 アンヒバ、アルピニ、カロナールなど)**については**脳症の発生はなく安全とされています**ので**脳症については心配ありません、ただし家の冷蔵庫などに過去に処方された相性の悪い座薬などが残っている場合があります、過去の解熱剤は処分しましょう**

**解熱剤は風邪を悪くする?**  
 熱は体を治すためにでているのだから熱を下げると治りが悪くなる、という意見があります、しかし、そのことを証明した研究はありません

**解熱剤は熱性けいれんを誘発する?**  
 熱性けいれんは約十人に一人が発症する病気で合併症をきたすことはないのですが、熱の上がりかけに発症しやすいとされています、解熱剤を使うと一旦は熱が下がるものの再上昇することが多く、使用したから必ずけいれんがでるわけではないのですが**熱性けいれんを起こしたことがある人や気になる方は使用しない方が無難でしょう**

**高熱なら使用したほうがいいの?**  
 熱だけで頭が悪くなったりはしません、たとえ40度以上あっても熱を下げる目的だけでは使用する必要はありません**どんな時つかってもいいの?**  
 38度5分以上の熱があるうえに、**高熱でうなされて寝れない時、外出中で移動しなければならぬ時、倦怠感が強く水分摂取がままならない時**などは使用してもいいでしょう、ただし6カ月未満の乳児には使用しないことが基本です

**実際は?**  
 飲む薬でも座薬でも成分や効き目は一緒です、一回使用しても下がらない時にでも追加投与はやめて6時間以上は間隔をあけ、一日3回までの使用にとどめて下さい

月山病院小児科では子供達に有益な情報をお知らせするために月一回院内報を発行しております

特集	感染症豆知識	赤ちゃんの処置
第1号 インフルエンザ予防接種		
第2号 発熱時処置		
第3号 熱性痙攣		
第4号 吐き下し		
第5号 インフルエンザ		
第6号 喘鳴		
第7号 喘息の予防		
第8号 タバコを食べた		鼻づまり
第9号 頭をうった	麻疹	便秘
第10号 小児の皮膚疾患	水痘	赤ちゃんの発熱
第11号 夏のスキンケア	手足口病	湿疹
第12号 アトピー性皮膚炎(前編)	清道菌感染症	夜泣き
第13号 アトピー性皮膚炎(後編)	おたふくかぜ	吐く
第14号 おっぱい	百日咳	かんしゃくもち
第15号 熱の頻度と対策	突発性発疹症	あおむけ寝とうつぶせ寝
第16号 インフルエンザの診断と薬	ロタウイルス腸炎	赤ちゃんの予防接種
第17号 インフルエンザの合併症	風疹	室温と体温
第18号 花粉対策	リンゴ病	でべそ
第19号 おしっこ異常	アデノウイルス感染症	おちんちん
第20号 おしっこ異常	反復性耳下腺炎	便の色
第21号 扁桃腺炎とアデノイド	単純ヘルペス感染症	母乳(あご)
第22号 夏かぜ	クループ症候群	離乳食とフォロアアップミルク
第23号 虫さされと蕁麻疹	水イボ	おむつかぶれ
第24号 月山病院ができないこと	境界領域	
第25号 中耳炎	中耳炎	肥満
第26号 インフルエンザの予防接種	鼻汁 鼻出血 副鼻腔炎	お乳が大きくなった
第27号 虫歯	虫歯炎	SIDSってなに?
第28号 12月の感染症	結膜炎	
第29号 インフルエンザの話題	脱水	
第30号 脱水		
第31号 チック	チック	体格
第32号 癖	癖	言葉の遅れ
第33号 発熱時のホームケア	成長痛	

バックナンバー：申し出いただければカラーコピーを差し上げています